

# 「家がいいね」 第88号

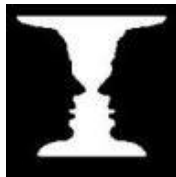
いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2011. 9. 5

## 同じ言葉でも違う意味？

二十十日と二十二十日に挟まれて足の遅い台風がやってきました。昔の防災の言い伝えの時期と不思議に符合します。これも「自然」と考える人「自然」は克服する対象だと考える人、この間で「自然」は天と地ほども違う意味になっています。「生かされている」意図に反して生きているだけの存在か、自分を越えた大きなものの意思の中で生きているのか、あなたはどうか考えますか。

「あきつめる」もうだめだと思  
うか、そこから始まるものもあ  
ると考えるか、「諦める」とは「明  
らかにする」というのが本来の  
意味と聞いています。



この白黒図のように、全く違う意味がその言葉に注目する方向によって現れるのには驚きます。

## 「終わりよければ」いせの会を振り返る

平成20年1月27日(日)『いせトピア』ホールで羽田澄子監督の映画「終わりよければすべてよし」自主上映会を実施し、伊勢市での「二人暮らし・二人暮らし」はどうなっているのか考えました。260名が参加され、半数以上が懇談会に残られました。アンケートも多数で、映画の内容を考え続けようと、「終わりよければ」いせの会が結成されました。地域で生活し最後まで自分の家で暮らすためにどうしたらいいのか？映画の問いかけを思い返します。在宅患者さん、表情はどうですか？豪州では、がんを抱えても生活を続ける安定感が伝わります。日本では表情が厳しい。直前まで病院で「がん治療」に必死だったのでしょうか。家族も「せめてあと10年、5年いや1年でも」と訴える形です。命に対する気持ちの差が明白です。豪州では病院・緩和ケア・在宅が何時でも何処でも受けられる連携があります。しかし病院で死ぬのが今の日本の当然です。その代償だった過剰医療も、今後は「ここまで」と中止される傾向が明らかです。法律や制度を問う前に、私達は自分の「生きる意味」を熟考すべきではないですか。

## 「伊勢のホスピス、市民が考えよう」

医療といのと市民をむすぶ試みを知ろう  
9月10日(土) 夜18時半〜20時半

伊勢市観光文化会館 参加無料

講師：金田亜可根さん(岡崎市民)

死んでも捨てられないモノ？

## 「捨て難き箱なり捨てる秋の風」池田澄子『拝復』

空き箱には捨て難いものがある。そこを思い切って「捨てる」。秋の風の季節はその決断にびったりだ。(中日新聞)「おののこ」は「4日より」

「終わりよければ」いせの会は、エンディングノートを自分たちで書くことと連続企画しています。伝えようと思った時には、既に時間がないということが多く、残された家族が遺品をどのようにしたらいいのか悩むことも多いようですから。遺品整理の会社もある世の中です。その体験を聞くと、家いっぱい的大量のモノをどうしようかと途方にくれて相談が始まるようです。独り暮らしほど、その整理は大変な作業になるそうです。知らない間に、捨て切れないモノが溜まる時代なのです。

## 映画にも

これは感嘆ですね。父親の最期とエンディングノートを見事に映画にした女性監督、砂田麻美さん。12月10日〜1月5日まで進富座で上映。是枝裕和プロデューサーとのトークショーも予定あり。



エンディングノート

10/1(土)より新宿ピカデリーほかロードショー

(写真は映画のホームページより)



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
新ホームページ <http://isezaitaku.com>